

第3回いじめ問題対策連絡協議会で得られた主な意見

これからの検討内容

抜かりのない支援のための重層的な支援体制についで

学校、教育支援センター、心の教育センターの三層構造による支援

- ・学校がどこに相談したらよいか分からない状況に対し、ワンストップの窓口を設ける方がいいのか、相談例を示す方がいいか、あるいは両方必要か。
- ・教育支援センターの機能をアウトリーチ化して学校、教育支援センター、心の教育センターの三層による支援体制を構築していくことも一つの方法だ。
- ・心の教育センターの方向性として、今後、支援プラス研究を考えている。短期的には教育支援センターに出向き、訪問カウンセリング、対応、経営、子どもの接し方などのアドバイス。中期的には重点支援校の支援内容、クライアントの相談内容、緊急事例を掘り起こし、分析する。長期的には中退で居場所がない子どもたちのつなぎ。

三層がそれぞれに活性化するためのOJL

- ・一定のことは学校で解決できるような力を付けていくことが大事。
- ・新任、2年次、3年次、主幹教諭の研修に事例研究を入れ、校内でやる、結果をレポートで出す形を取れば、学校で専門家と協議したり、校内研修を通し、浸透が可能になるのではないか。
- ・研修を通し、日頃から相談できる人間関係づくりができればいい。
- ・OJL(On the Job Learning)の考え方でミーティング文化を育て、組織として実力をアップしていく仕組みに変えると活性化する。
- ・心の教育センターと第2層(教育支援センター)がつながり、それぞれがコンサルテーション機能を発揮していくことが必要である。

【資料3-2】  
県内全ての子どもへの支援をめざした体制づくり

【資料3-3】  
これまで支援の手が届いていなかった子どもたちへの継続支援のための仕組みづくりに向けて

学校と地域との見守り体制の充実について

学校と民生・児童委員との情報共有の充実

- ・民生・児童委員がもっているいじめの情報についてどこで扱うか検討を深めたい。
- ・民生・児童委員の見守りの仕組みの徹底が重要。
- ・高知県版地域学校協働本部で個別ケースにどこまで対応できるかが課題。

民生・児童委員との情報共有を更に充実させるための仕組み(民生・児童委員とSSWとのつなぎ)

- ・学校と民生・児童委員がリンクしていくためには、SCやSSWが入っている各学校のいじめ防止対策組織へ加わり、基本方針や対策を練る方法と、高知県版地域学校協働本部の活動を活用してプログラムづくりを積極的に進める方法がある。
- ・民生・児童委員に個別ケース会等に入ってもらうために、どうバックアップすればよいか。